



特別  
~5  
6694





出頁  
15  
6694



山田日一

深川親和翁





明和六年己丑歳旦

松風の雲ももや川飾

自在菴

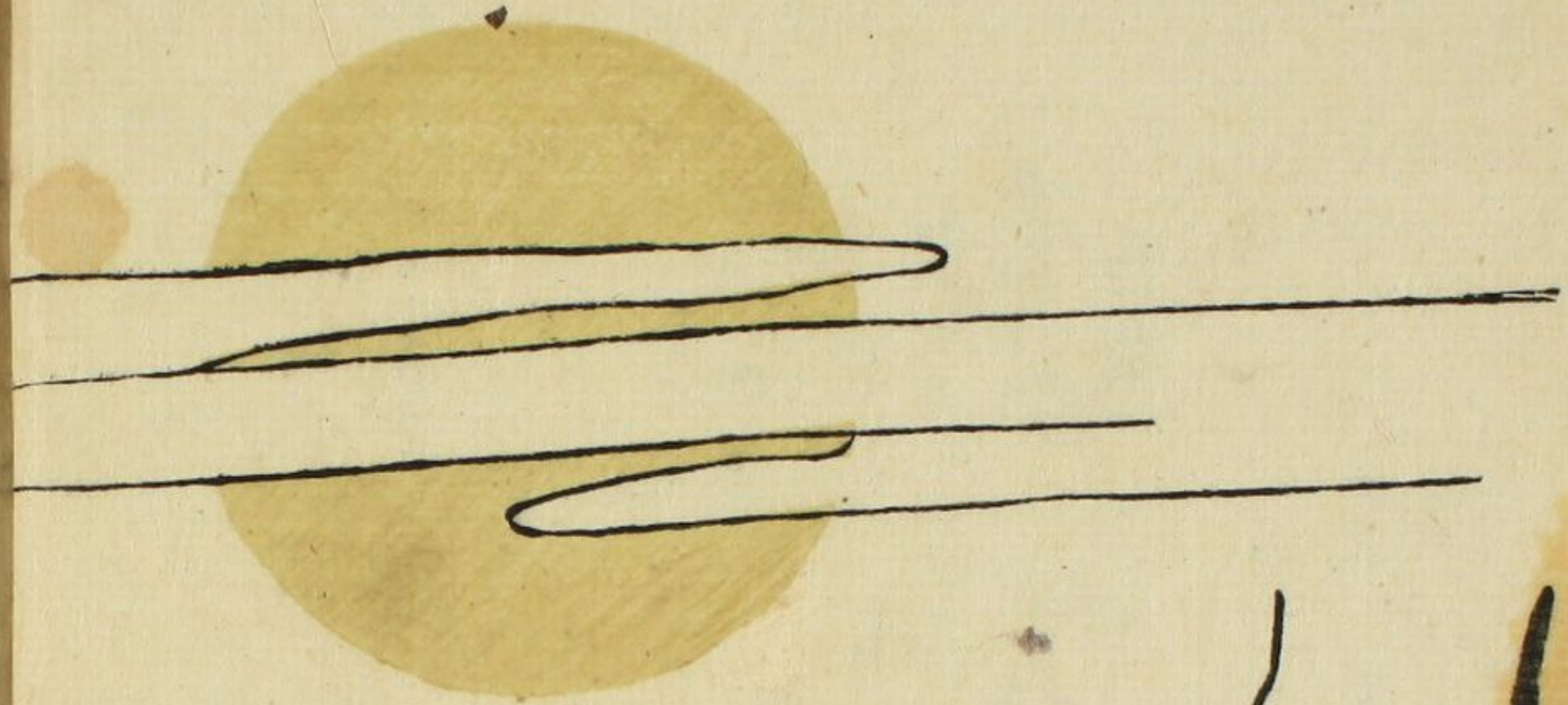
祇徳

いもかこ筆味合衆

祇貞

蘇麻日ハ豊とて富士のあり天

魚淵



いもかこ



賊何橋俳諧之連歌

水至清即無魚 右家語 橋花街 人至察則無從

おろりさぬ家幸や今朝の春

祇徳

禄も毒も皆福しの糸

時人

金屢れ松もじり長深き

仙分



孔雀くろ眼もハ満より玉の頭

芳樹彼

魚洞

花の御紋よ長閑な風

祇徳

船系馬の枝虫くくくやの松

全



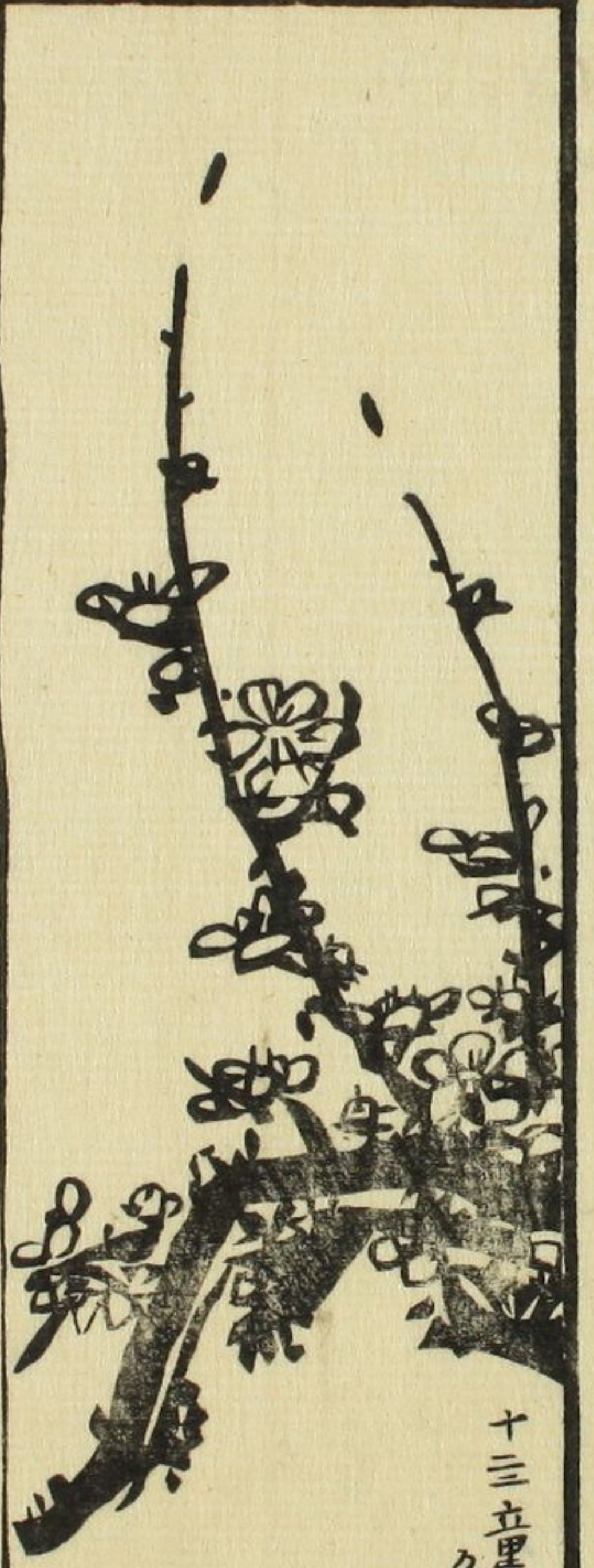


風味茶室  
青子

初霧先桐壺の御沼より  
時人

にうらと知ふ君は茶子  
秋江

物咲やそれれりきさ落の産全



十三立  
久満画

国志の治政御代や四方の春  
銀珍

室年正一君の福業  
法江

尤近もの物うけく年の美全





こゝに清華の妻と遊ぶと云ふ

翠月堂百集

車井のひびく音や明の夜 祇高

塙の内外より御筋の竹 祇高

衆る書く世々の心算の巻 全

光陰も花御も子一江戸の妻 全

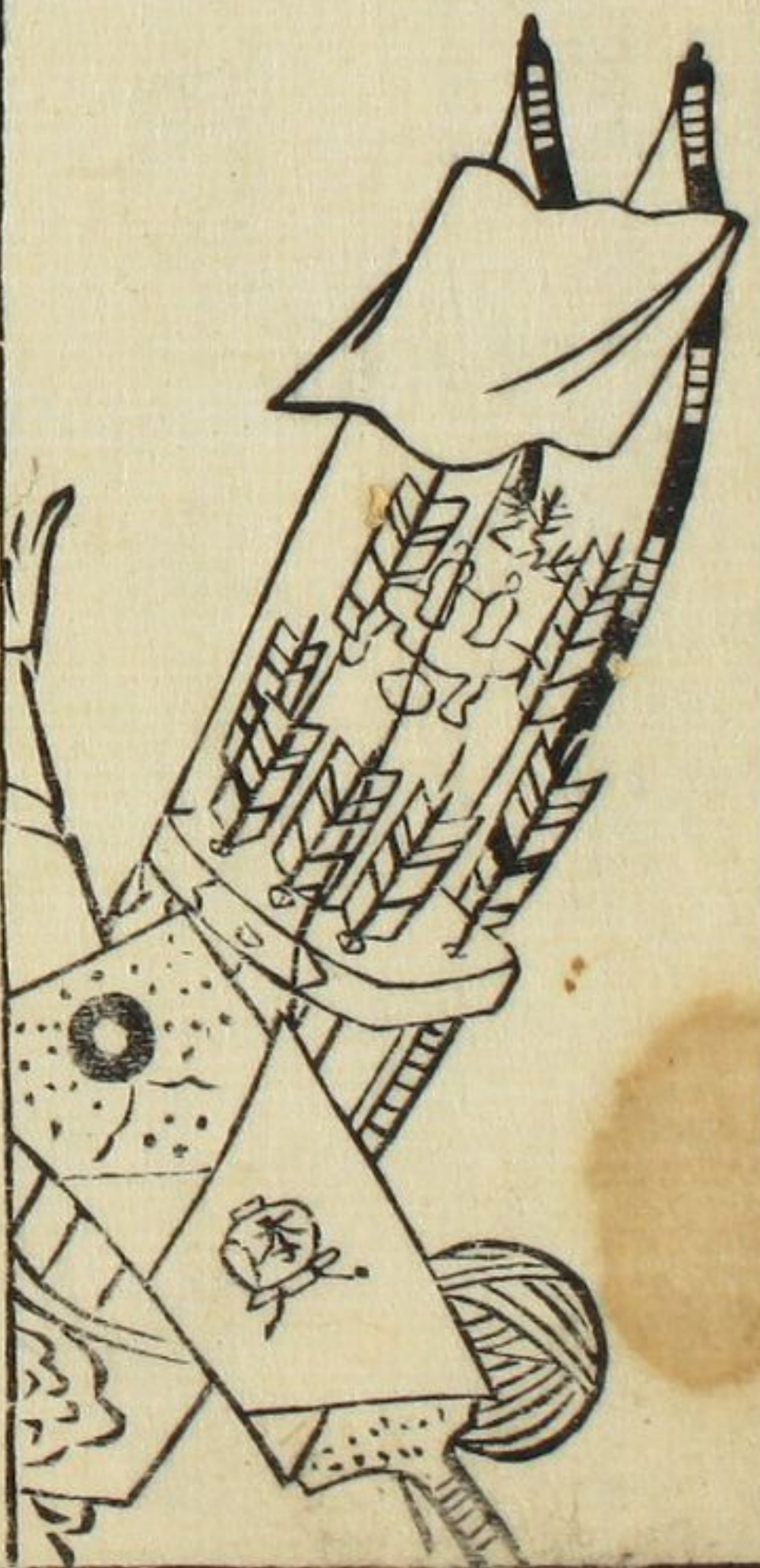


しつかりきもの心や松筋 湖東

徳義の心や出雲の妻 祇高

同くしつかりきもの心や松筋 全





四年より子も孫も持て  
いづ井もさきよりくしを

子や孫乃坊来と示し明の春吟月堂 只年扇

地すい連理のおほん竹松 祇治

鬼ももていひらえん比の年の三 全



立く初也 田舎の南十光菴 碑明

りんご立くは勝も代 祇治

横見せむ 海走の花のうゝの山 全





酒光は見てさうさのまは初見は其扇

ぬれじこふも即嗽の春  
以治

猫のあふくまし果物全



咲きまわして

白花菴

万葉や鳥帽子はさきさき  
め  
 瀬長

らん空色にんげん斗目の  
以治

まのくさの白あけの梅  
 全









達来亭の序

のしと出せ 竹気とくら日向 梧生

舞う沸て山層後の味 紙治

雪翁う馬くく 全

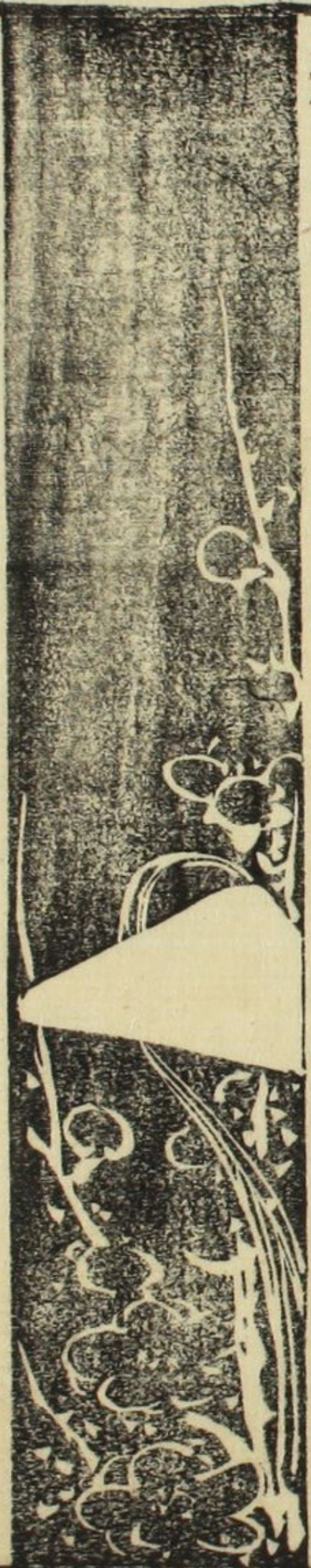


紙文画

若さの波もやあま 今朝の春 紙産

よはほのくといか 初雛 紙治

新巻や夏より秋の明のく 全

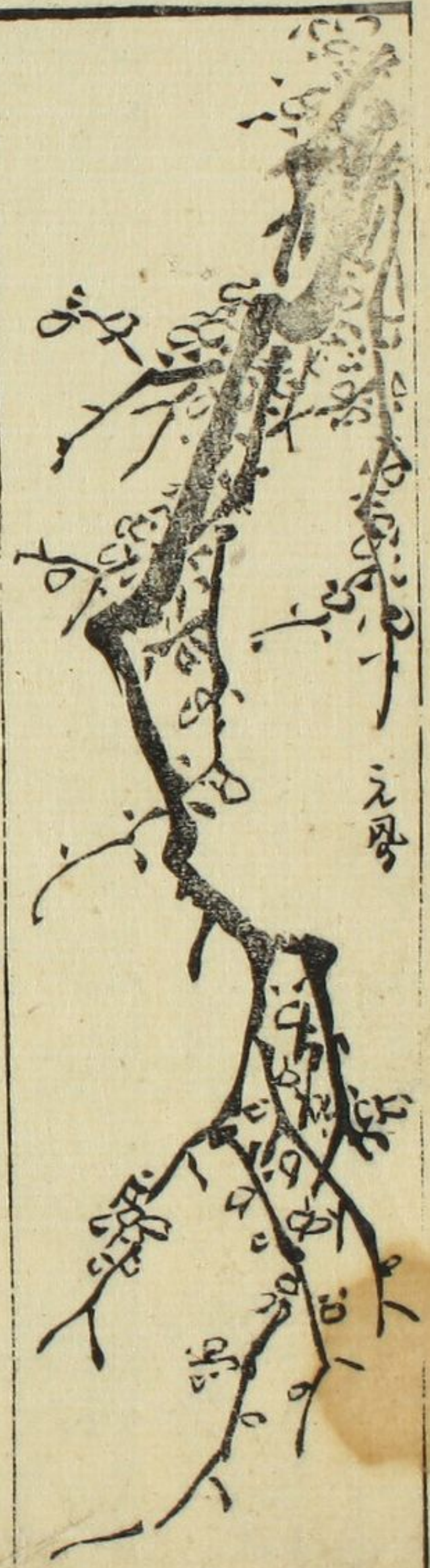


こころもや敷の子はくそこの頭 紀春 紙治

たけの雪うみ鏡の松

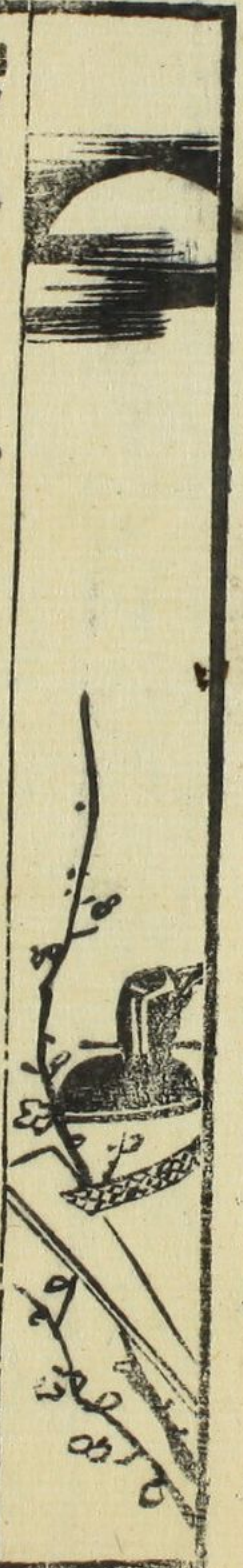
らる夏の味勢もあまより年急き 全





方言萬當不加一默  
 此の余の孤若州の道  
 東風ふもや入舟懐かぬ是し  
 水天のつもりつら朝起の奈  
 鳥のつもりつら遠き安の風  
 うらの月く申つら此の終の終り月  
 化旅道具了袖や蒲萄や

你祇九滿祇五九祇  
 雞雲為明唇牛空德



智ひもともや来訪つ若の智恵袋  
 仁あそと此子こそら初日新  
 勇やおそをれ清く去るよ梅中

排龍  
 全  
 祇治



常盤本や御代も初ぬ二柱  
 つきせぬ屠サ徳子君の盃  
 子福者の寔者一や市土産

琴西佳  
 祇治  
 全





三ッ組よ揃ふや 扇後の福祿壽

祇貫

ねり由大根と即雅煮の楯

祇治

荒雨と来まふ 顔や兩走ぬ

全



沖の面よ世やまつくと室

祇昌

なみ張つさきよき市淫和

秋治

係承張よ世やまつくと松の風

全



日張りけて千代の勢や松節

吳來

らーや百何 弘印年玉物

祇治

時酒よまむ 帝や 涼水の梅

全



親も子と 初甲も揃ふ 機嫌小

祇晶

むつま 一月の虫家蓬菜

祇治

年の市 棠もつ 赤袴や 舌の巻

全





久落画

あふりり壽 初め海福来 祇旭  
らくひすハ竹中護の松 祇  
富貴自在今も昔もまじり

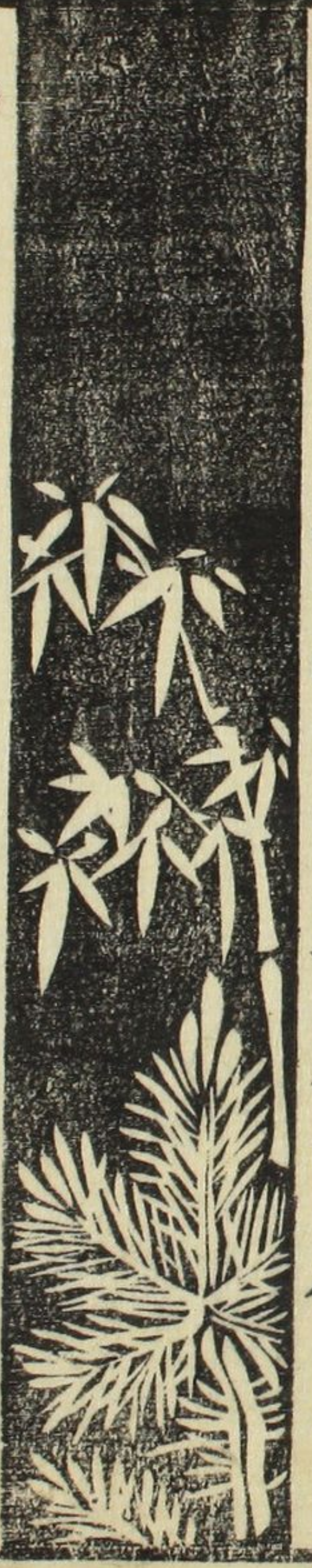
富貴自在今も昔もまじり 全



千代りけい家や初見は 義経 避是電 祇  
おともつる色もれ鏡の伝連 祇  
目の歌とふし紙也 師走川 全



明しまつ日の生鏡や 鶴の丸 圓芝 十  
のつと海々色れ 定ぬあ 祇  
のちそくしぬめのちり年忘 全



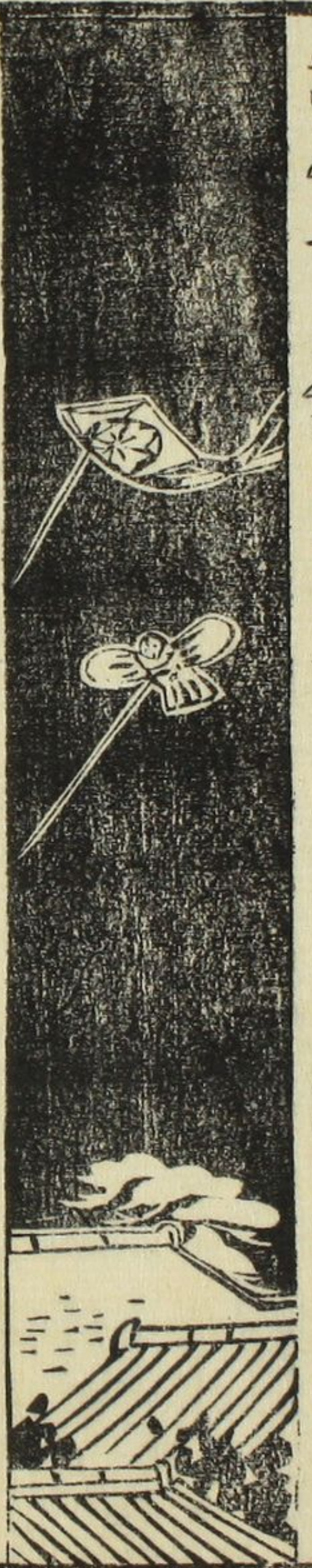
元日や先物ヤと亀た丈 翠山  
に保たしん実君か代の春 祇  
大早や糸袍着て見ぬ雀た丈 全





松子進て行よ常より初日の出花田東子  
 祇徳

菜の上よ妻は夕めをくしの梅 全



大道よ童くさくさり花の春  
 吉く  
 祇徳

如流の糸もあはれく草の葉 全

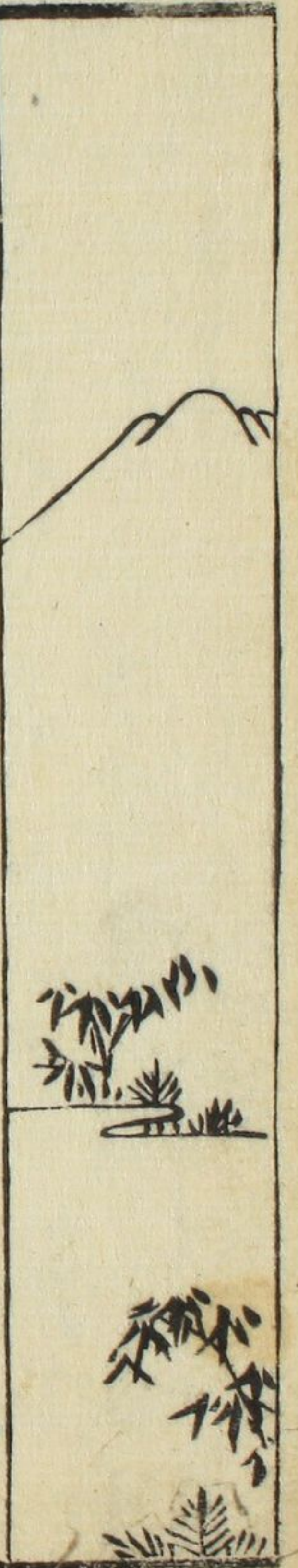


元日のちりちりよ栞栞 若舟  
 まつ松つ丸飾よこきま行 祇徳



雞の音よ善やく空やふ代の疾 祇泉  
 けしき調ふ御庭若叶 祇徳  
 雞の音も善やくつもりこ 全





つまじきものゝつゝも高き家の頭

里紅  
祇治

ふと著難き御家御のこと

書始に雷を採つていふまゝ

全

軸



くまひすれ轉るくくくろ朝

流家  
祇治

こくくく魚多れ結守の般

求る山に紙をいふあり 大二十日

全



富士つくと二目も嬉し今朝の頭

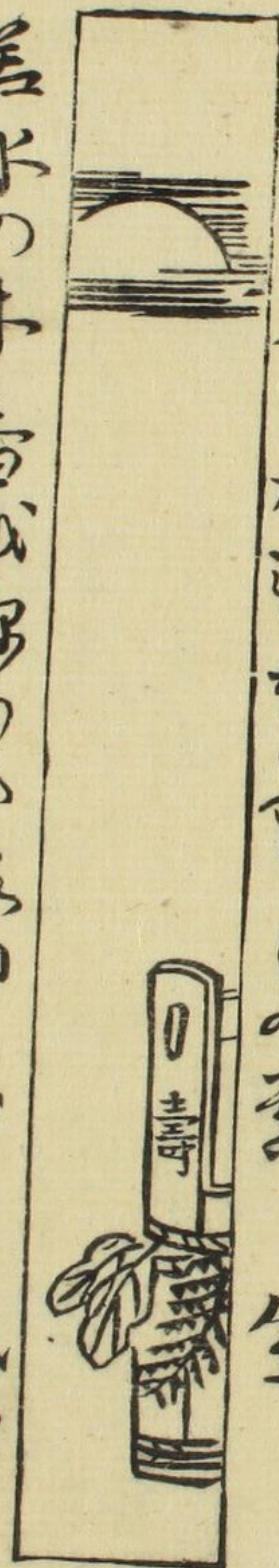
祇風

江戸の自由に見ゆれば節

祇徳

いせめ老る水引をくくくく

全



着水の木香紙ほめて初日外

祇亮

てくくとかつく御儀式の頭

祇治

初着のこゝはあまの

雀く喜ぶくくくくくく

全





六十一の妻は延つて大徳の布中隠るく  
ら使つとすれ家柄と仙境と云ふ  
親承格、かくと受侍候

松高庵主

初日親

丸裸

露紅

紙作

泣き

あゝ人の密御門  
丸裸のつくりや  
紙作外へして

全



さく

初日登りか  
かけあは

紙柏

全

あゝ

師走る中へ  
枇杷の花

全



朝風よまふ  
袍をよめ  
君り春

猪徳

紙作

文車よあは  
際もあは  
此真

全



軸

旧年自在菴乃  
水光の二字と  
親承格、かくと受侍候

水光舎

若水よ  
先日の虫や  
玉珠美

魚時

紙作

あやうや  
民の住家と  
豆の音

全





子了孫よハ重よあて〜花の姿  
のつく〜寶あふ御福

祇月  
祇花

〜のちよ姿や仰きのまゝ

全

ひをさ終や声も千代く君う姿

祇蝶  
祇花

みきハよ電のれお遊草

全

姿まらして優〜や梅枝のら

全

遊草よ大坂伝うか〜ら

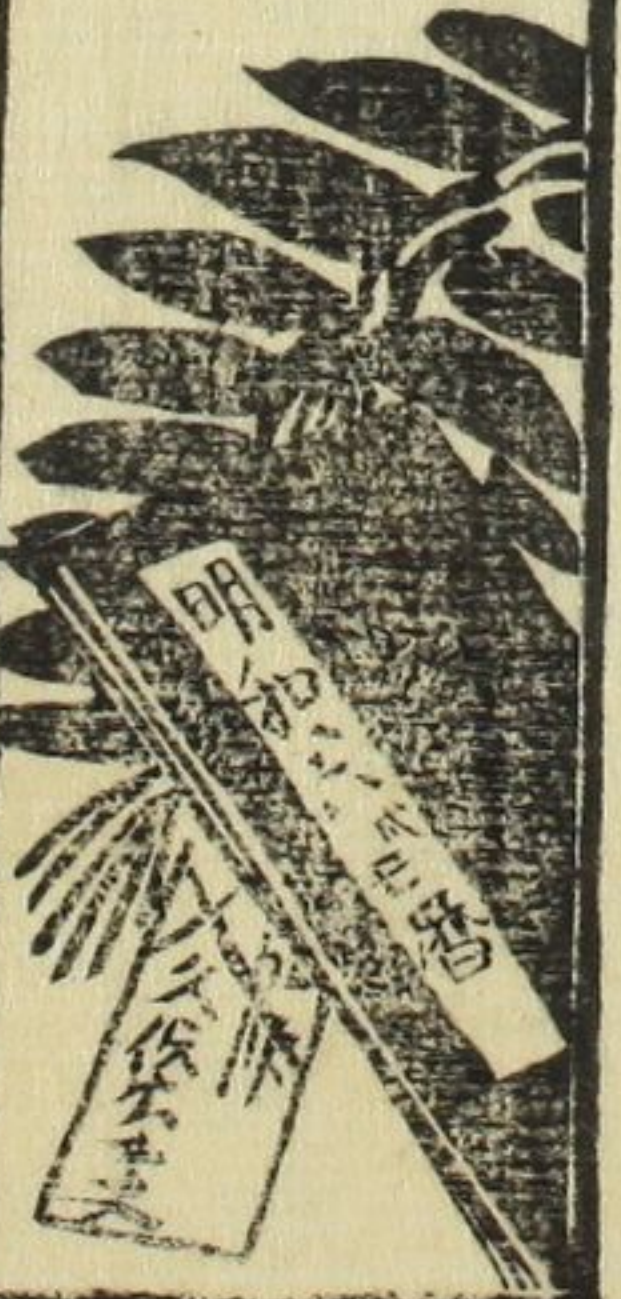
祇紅

御留守能調夜揃ひつ姿や侍

全

ひ矢の花もや難波乃妹幸使

全



おそもみて向ふやいせは定恵方東是南竹苞

伊んゑう叶〜初雞の聲  
入マて身終〜れ真や

全  
祇花

日の照れ神路と来てや初曆  
ゑたのゑは初雞の聲

全  
龜汀  
祇花

まけてが心靜や〜れ波

全

武士れゑまや〜も日の光

全  
龜貝  
祇花

餅花の咲際とあり世れ仰を

全





元日や又門ふき松の松

千林

もちひ鏡の口をきし世

祇治

快き空の元氣や大晦日

全



元日や又門ふき松の松

祇夕

七人年万葉出むし月

祇治

園見も松ももくや目白岳

全

### 改名賀

萬葉や糸が舞く名の扇子

祇聴

すみのえくさ門くの松

祇治

舟の市よいねももめて度りりり

全

御軍旦の丸腰の冠よりらは四十八字と  
名く並つゝ其系了至りて

常や系然一字と初冠

祇徳



鶴の声空も長飼き丸腰  
糸乃脊の籠と後し丸腰

村鶴  
村龜





浪子弓子とねもこ 破麻子筋 紫十



色子近く水屋のあもねりみりり かん



光増戒塔王子結 玉の春日 三橋  
耐頭やがしきき色子と床水の福 全



家くす木具新し 神の妻 羊秋  
空紋乃花咲ふや 衣配了 全

大凡巾了 壽の字書し 年終り 全  
年終り 市福の字は 笑 色桶 全 椿子



下戸ふくぬかの色 度之徳と 花乃妻 五牛  
師のまは 菟藟賣色 師を小 全











紫より成り鞠と花の夾  
 此足の内へさへけ大晦日  
 全 祇白

大福やうのち釣瓶も五三飾  
 菖草や登るらんやうの坂  
 亀定

蓬草が飾れ川邊も家乃紋  
 大黒了は也や屠以爲乃涌泉  
 全 冬扇



清草 道

戊の皷もひらり  
 足もとも急く使やうの業  
 松竹の草年静まり今朝乃夾  
 さるくか安は見えり年のたれ  
 夾日妙や恙艸心ろく川裏  
 やうもはれも流るるあやのま  
 録花は嵐や後よ千代乃夾  
 閑さる夢のるあは一年のたれ  
 年終尾乃饑やあしき明の春  
 唾よりや其きみりの厄拂  
 おくそれやよまはあは羽子た子ら

藤種 全 五樂 全 半中 全 荳花 全 花流 全 室馬



家思了 聲し 娘 返 孤 ち っ っ っ  
来 っ っ っ 又 各 年 了 親 ち っ っ っ  
子 了 っ っ っ 世 了 起 っ っ っ 朝 乃 矣  
持 出 坊 鴨 色 師 走 乃 乃 奥 っ っ っ

元旦

山 色 里 也 君 乃 矣 也 明 乃 矣  
初 小 木 乃 立 派 了 世 っ っ っ 此 っ っ っ  
帆 上 っ っ っ 矣 了 君 っ っ っ だ っ っ っ  
釣 臺 也 調 了 懸 っ っ っ 乃 波  
花 咲 也 藤 也 合 矣 矣 乃 矣  
芝 薺 乃 薺 也 合 矣 矣 乃 矣  
今 乃 切 忌 乃 寺 護 役 也 っ っ っ っ っ っ っ



一寸志  
全 其 言  
全

山 橋  
全 洞 波  
全 香 丸

懐 一 朝 日 っ っ っ っ っ っ っ  
翌 日 っ っ っ 福 吉 乃 必 也 大 晒 日  
も っ っ 矣 乃 云 羽 泣 っ っ っ 烏 帽 子 箱  
も っ っ っ せ て 年 の 尾 發 也 造 酒 乃 口

儀 九  
全 神 魚  
全

初 花 と 見 ぬ へ き 物 也 門 っ っ っ  
も 多 也 矣 了 也 っ っ っ 四 極 っ っ っ  
武 儀 野 了 月 っ っ っ 八 極 っ っ っ 日 っ っ っ  
笑 っ っ っ 所 走 乃 梅 也 翁 齋

乱 篠  
全 其 禮  
全

新 玉 乃 年 了 也 花 也 門 っ っ っ  
世 渡 の 浪 也 了 っ っ っ 年 終 證

花 笠  
全



三の朝三方屋浦衣食住  
摺小本乃其志々々也大西日

吐屑 全



明々水も雞冠乃いろや其乃年  
由以してつりぬやと此らうほり  
龜乃画乃扇子乃白や筆始  
競と柀の色と其まの  
先柄々若流岸也今朝乃其  
年乃これ衣袂と其と其より

物外 全  
威雅 全  
素容 全



逸弗改

系もいじ名系初日乃十寸續  
関々々也雪乃伽羅也一年乃其

其矣 全

け朝とく之はくさく屠總乃  
色のくろき厨友也一煉拂  
柀の根も其末廣一門乃其  
咳初は雜煮の上や花能

相生之  
馬馬 全  
牡若 全  
関里 全

あ代の其礎や  
打寄は年乃男波や煤拂  
筆乃其除も其也其々其  
先はく柀も其乃其の宿  
人乃名も其も其今朝乃其  
くく起て画くや菴乃其  
人並り食つて其師者

水戸  
臍霍 全  
龜遊 全  
其矣 全







元日や山より尾を延び  
能因ハゆと極らん年乃  
善水の行新を懸し松乃風

全 榊橋  
全 千鳥

酒花橋

我輩と慶斗目よりあやし  
時あつた落多や年の帝乃  
余はゆらぬ蓬菜山や門  
交り乃らふ松乃

全 玉簪  
全 雀子

元日や上野も迫き花乃  
餘橋や上野も迫き若の花

全 義水

一魚くらの板の若戸も明の  
煤掃よ福尺付り白  
常と窓より花乃初音か  
栄つる花も冥加の福を内  
門松やま風は分竹了露と  
神棚と一版を一年新葉

全 菊山  
全 孤鶴  
全 秀月

吉例の五文字と解して

美翠や嘉例うらぬ笑ひ  
煤掃や角ふき鬼の多ハ

全 獅扇

五屏の来のあつた乃  
此小袖と花もさふら

全 萬葉



壽の料一々り福寿料  
庭の南を来まの節也里の葉  
龜象

一尊

其はふくろく屋も同し福寿料  
年此餅向く花乃雛形や  
其不孝ふ丈ケア生く根松の  
きのふくろく口さてのふの師を  
国の来山川万里急教く南  
善行をんれをかうき師を山  
全意摘  
全玉砂  
全然丸

初

初来やまの破けく甘男の松  
高くやまめてもまむ福の神  
全祇水



こくろ日本一乃く川日信  
竹質

徳養閣といへる名とてありて

鐵金の外了鉄わり大西日  
つみても善い教く梅乃花  
全全

一尊

明初し一時千金花能江戸  
わりのくや採花も明教江戸の所  
振袖の袖くもく如夢  
鬼玉う後姿やこれれ  
南部  
全祇山  
全雪





時よ〜の願を今午三の朝  
其造とちり袋や〜の梅

全 睦水



改て大久保 後〜〜乃春  
明し今朝梅の笑顔や窓の裏  
ぬき替て福寿の笑也ききと初  
万代や川松着き初日乃出  
す片ふて君のめく片や初日就  
男〜〜かく空も懸斗目此初日出

法法 春春 嘉嘉 其其 德德 雅雅

鞍場て馬も伊勢路や〜の裏  
大紋の袖もあやや明の春  
新室の窓もあやや初日就

あ 箒

山 祇丹 石 銅羽

造酒伝実神前乃十代乃妻  
盃も頭也〜〜つ〜忘也

箒 日

全 湖 船

いせ賣乃愛〜〜泣〜〜れ梅  
つまじ松風あ〜〜や猪牙の頭  
不〜〜や第の体じ初日風  
未蕉と葉も妻乃あ〜〜き  
ま〜〜は君の息吹雜糞

筆秀 桂紀 祇紙 端木 雨迪 船



さらさら仲實のしらべのけり

果実

仲實のしらべのけり

〇

祇船

来る去のふまり蹴鞠や年々

法手

うれしきとひろふて靴や年の坂

法文

年の末や合をせしり豆乃殺

其井

大玉乃かさか割深や

徳雅

物賣の声のひきや

丹羽

梅咲や来とかくり

祇山

いとくしと矢部端や

山石

人足のおくもつれは年乃雷

紀迪

白魚の子と老はや初さら

祇船

旦言之吟

〇

〇

むらさきやふつし見れは花の来

風租

万代の亀乃齧や

吟尊

そとせいか四谷ふかき玉乃来

白鳳

横字乃音乃声あり初日始出

蒼志

くまの見る管もくさる月の変

味星

書始し移らぬ教や

吟會

娘やまの松博志の果実

白鳳

冬牡丹まくくさる鎌も一花乃南

蒼志

若姦酒の袋も出来て大根

味星

齒固乃鏡や

味星



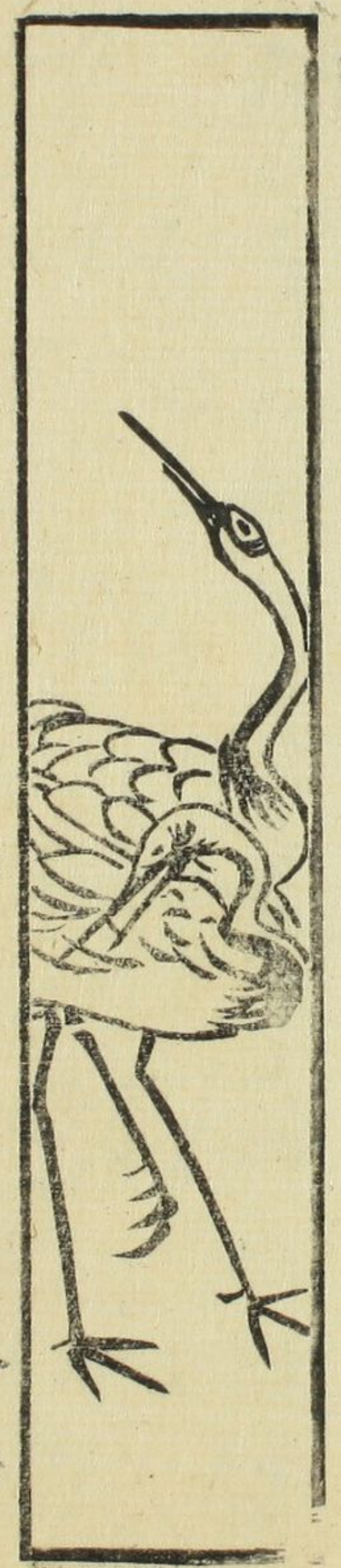
大馬子虎目如くわやうの市

味耕



大馬の多りて来多ふ 世乃春  
やこれ内より来極り多の玉取子  
千代といふ名は秀より松乃来  
よのりり乃名は秀より年のこれ  
花も実もこめてめていし千代の来  
まの春と仕ゆわりの花  
三法と変ると胡弓也 三乃胡  
富貴自在徳おきまゐりて年美如

春山 花香 錦光 曾興



蓬萊より向ふや 梅の初日 熟  
初来や此君のる然も心あり  
あや成君の水影や 千代乃春  
亦説せよ約といひく 初日の出  
破戸弓の来よのこもや 今朝の来  
先開く千代乃くもや 福壽州  
八面萬世の中丸く 玉の来  
年乃 来の豆島を 築りり  
流れよ音 師を 知る 流の 核 隠 風

林梅 素鏡 藩耕 林社 其院 吟翁 袋翁 林社 林社



大馬と盗み自惚や年の市  
 積揚る俵の粒ややうら高  
 人指し算へ浩しや古曆  
 四つ海收も輝やとくの丸  
 漕舟のてめてさや年の西日川



初来や今年も差し鏡餅 廿 梅 芥

春例吟

今日無さうい皺どのし身世苦少

拍里舎

道狭くくね千代乃来約

味風

ゆきくけの橋ふる味しきと始

竹磨



言妙乃來未分や 明乃春

樂水

天と感應 君れ初難

以徳

勤くぬやうの音路乃居りき

全

日と松乃冠飾らん今朝の头

翁良

地の利人の和 市讀語

以徳

唐まうても續く深や 定之

全

白妙や東風くもとしきと始

璋美

人愛くと抑代乃元日

以徳

東国の名し急ら増も年の梅

全



兩等仰祝吟

九日や	あつたきき	富士の襟	松
妻の山	初り	麗乃	産湯
唐土と	富士より	死る	山の日
松竹の中	不	福壽乃	笑ひ
竹紫	富士と	明州より	の恵方
咲む	戸印	日未	永山
男山	強	り	花の
明清	一	睦	し
三の	期	之	重
う	く	代	や
戸	く	忍	代

終る	かり	して	福と	も	取	り	於	巽
形を	妻	乃	富士	の	分	根	少	素
後	くと	春	ま	つ	梅	乃	一	番
穿	つ	福	禄	壽	乃	仲	春	乃
恩	沢	の	福	壽	多	き	乃	乃
松	竹	不	並	い	て	や	の	梅
漁	火	乃	唐	士	近	し	一	年
六	の	花	年	乃	端	乃	乃	乃
京	在	の	い	さ	な	乃	乃	乃
水	仙	と	流	ま	い	る	乃	乃

東君

翁代や 亀の 息之 くら 以 空 分 龍







声と花母しよし野く明 鴉 故曉  
谷吹や梅の山口く川 指 梅 丈

年梢

やつとふ糸綿ふね年乃返紙人 分 竜  
まら際や一きハ石落の年花ひ 其 外  
面白く凍も解るや 年乃内 湖 雨  
得陽や年冥世話をやし忘 可 曉  
露も流み親さしも夢つし 花 亭  
中すか雪乃戸袋やし抱ひ 千 夕

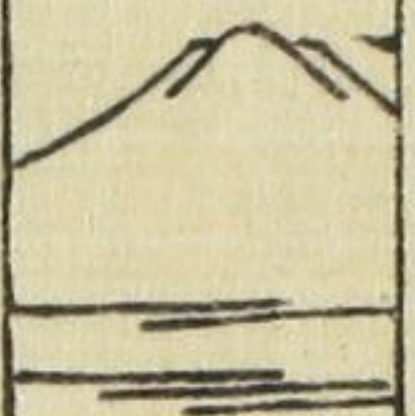
年内立春

皆笑歌妻了流うつ 年 北 橋 鳥 程  
幸先もよし此く妻と隣 出 飛

し波の懐廣し かがり 鯛 青 角  
はき日の帆や し 角 馬  
笑しまつ室や 年乃 艦 春 落  
行並乃松も 千乃 矢 先 風 水  
吾も家々梅ふね年終 吾 俣 時 尋  
長生のエまや 雪 負  
ま山一ッ戸か 年乃 抱 八 瑞 葵 士  
美代を為す葉竹の 実 桃 洞  
糸季のや年の表との 早 雨 り 桃 洞  
掛もや 年乃 浪 る 此 友 り 舎 童  
唐すあし 娘 年乃 勇 や 師 乃 吊 佳 水  
つとれ 雪 初 還 と 年乃 二 子 山 風 虎



高く望みの	綱つや	年乃真	哲尤
四海皆今宵	終年乃	懐子	筆馬
科色人乃	流つて	つらや	大晦日
御恵あつ	つら	年乃家	宝文泉
川乃名の	千年と	永き国	見少
立春在	備		
あつま乃	海士ヶ	直や	年の波
手被て	望るや	年乃神	路山
連乃	侍	りや	富士と
烈と	捨て	後じや	東乃年
			乃船
			全
			怒登



東武了  
矣と述て等

東雲舎



大門乃	新	く	く	く	山	旭	緩	里
梅さ	ら	ら	矣	の	支	乃	一	梅
								全
花々	多	不	隠	奥	山	や	福	来
羊	氣	と	お	是	より	富	士	造
門	乃	松	と	水	慶	乃	侍	り
初	と	と	空	不	へ	と	と	高
								小
								全
								南
								了
								柏
								支
								官
								水
								豊
								後
								冠
								流
								嵐
								白
								麦
								岩
								日
								此
								乃
								矣
								祇
								祇
								全
								師
								走
								乃
								留
								士
								然
								矣
								部
								分
								全

と常



松乃矣

祇祇





元日や 三麻子 なるき なるきと 宗成  
 ひとせの せりや 納了 昆布の 節 全  
 梅干と 元ハ花 あり 光の 春 十橋  
 とる年 じよあ えて 移る 旭の 杖 全  
 東く 妻と 配る 明馬 全 来 隠  
 又 凡れん 親乃 付と 不成 たり 全  
 そよ風 のり 新し しく 門 饒 心 我

志 癖 へ り ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ 全  
 日 此 寺 の 三 種 と 是 抄 三 の 朝 桂 舎  
 折 つ め る 子 供 の 指 や 大 胸 日 全  
 神 の 代 了 度 る ぬ り や 是 ぬ め 成 義  
 お ち り け ぬ 年 と 月 日 の 嵐 乃 尾 全  
 赤 例 之 祝 吟 全  
 物 毎 了 松 子 と 得 たり 子 代 の 妻 文 旅  
 又 ひ たり 子 寶 ぬ たり ぬ の 音 全  
 有 雞 や 稻 荷 了 隣 る 富 孫 春 東 里  
 無 り ず 是 貴 人 あり たり 年 乃 客 全  
 吉 例 之 祝 吟 全  
 祝 くの 喜 ぬ たり たり 門 たり 柏 筭

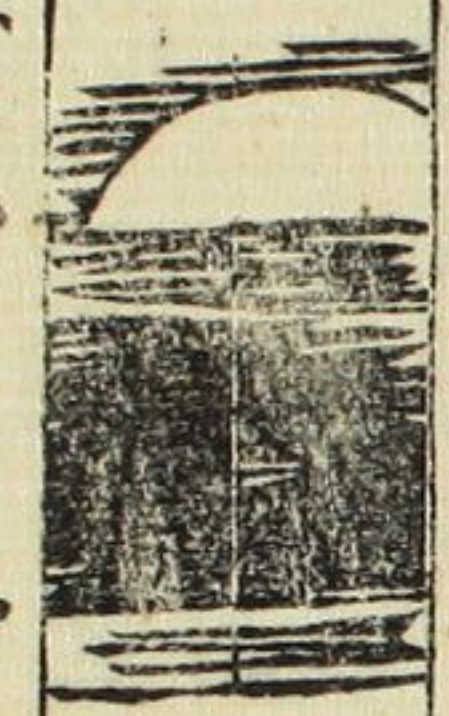
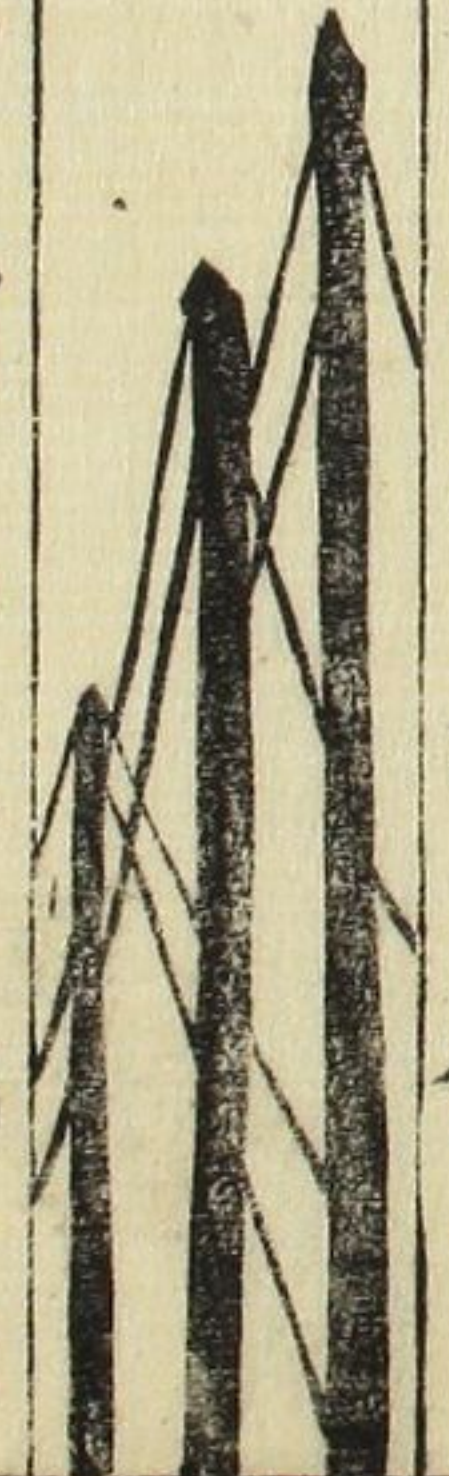


洞くろ声や松賣系竹より 全  
 七種如柏子を侍より 男 豊調  
 福と内へ舞納むり年乃れ 全  
 緑と妻より侍より 柵 橋 菟雨  
 つきと様花と紅衣 配 全  
 屠穂の香や 赤壽福の二字を 掌 松有  
 松竹の千代と建より 年乃れ 全  
 汐湯のふよ角より 玉の妻 祇蘭  
 菖け牛島鴨鴨一年の暮 全  
 一テワキみ孫婦寄や 門乃松 溪雨  
 一年の志ありや 舞扇子 全  
 伝旭如 旭言 筆 全  
 来 賀

王義之乃 筆を師走る 教あり 全

全

信夕

あかきくさのせいの字や 門 信夕  
 馬くといく人多し 年 市 全  
 伊勢海老 旭うけより 門 節 花 徑  
 とも南馬とさし上てりて 年 乃 市 全  


 作へき 和歌の色香や 浦乃 頭 縮波  
 子寛や 年乃 柵乃 花 盡 全  
 ぬく嬉しめちこちまれの明乃 春 梧 栖  
 暁や 文乃 鐘 如 妻 迎 全



厨眺乃やうそ弥見人 松乃妻 村松  
正月乃登りりりり 夜 玩 全

元日



婦一おび子寶船や 男 山 湖 河  
よいりりりりりりりりり 年乃市 全

東君

上総姉ヶ崎

つくろ孫乃殺も草りりり 子代の妻 祇 調

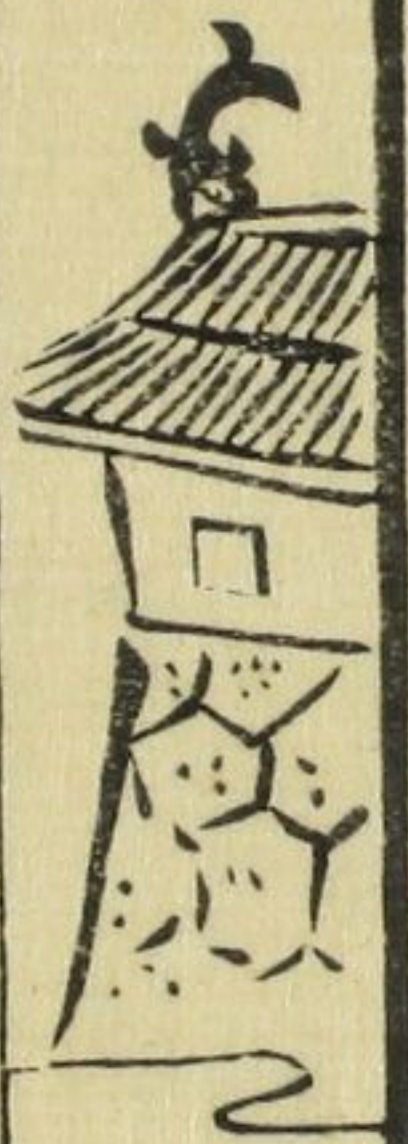
松葉乃懐も富士久 固 見 風 全

御祭 神酒乃切火や 花乃妻 祇 山

梅う香乃白ふや 深衣乃 祇 油 全

世乃申の青玉井や 明乃妻 祇 蓬

笠坂車色りりり 然 勇 山 全



初日歌 幸こころ 神田橋 田 鏡  
晦日まうしやくとくくく 年 忘 全



松竹や やふ梅子生つ 花の妻 九 瓊  
集物了 書林と 年乃いときが 全



人色歌も 十高女 妻りりり 子代乃妻 品 雞  
紅粉鬘乃 走りと 年乃急きか 全

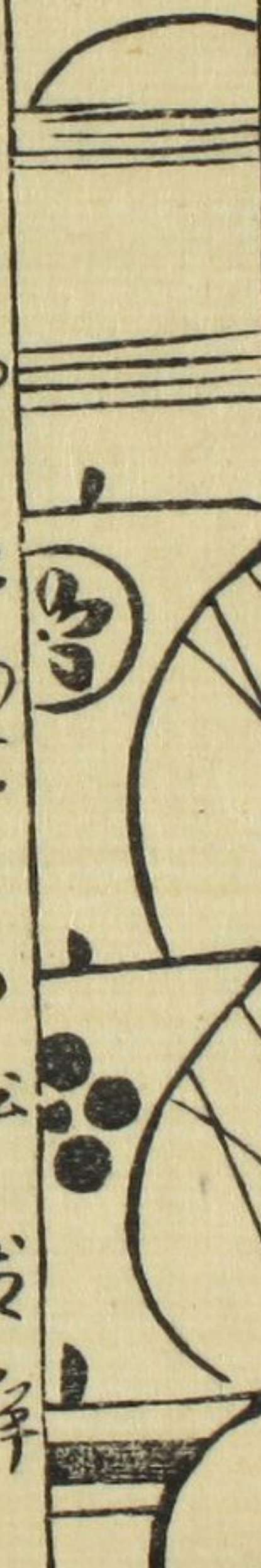


去大守依 懸命守也  
 授一強海 城主三善皇  
 の画好使せしる富士松いけ



賜ふ市重呪いわりや家始頭 祇龍

外一とやうしる羽子 祇徳



長崎と近し君乃たし 船枝靜

玉乃春うね 金銀の羽子 祇徳



龜乃齒齒乃平尾長し鏡餅 幸成

天とくくくくくくくくくく 羽子 祇徳

初礼了大忌能乃白くぬ 秀義  
 初松魚やせしる年也 極端 全



神農乃味いりし 福壽の草 白始

屠為死る奈又ふあつ 大晦日 全



持しとととと乃 多あつし事始 海市 全

龜乃春りし松竹 籠れ年始美 全



卷

大鵬と羽根とのも日や明乃矣 采粒  
 孫亥乃指於野也 一々言如 全  
 書初也先長くと福祿壽 祇文  
 奪後の市形と年乃儲 少 全  
 九日也天地の間乃其<sup>市</sup>勿<sup>煙</sup>の 大牛  
 餅の喜々<sup>市</sup>抑<sup>市</sup>を<sup>市</sup>して花々咲 全  
 梅々枝<sup>市</sup>了<sup>市</sup>階子とくけて娘々お 魚光  
 年の海飄とくり<sup>市</sup>以<sup>市</sup>遊き<sup>市</sup>り<sup>市</sup> 全  
 壽と<sup>市</sup>く<sup>市</sup>秘<sup>市</sup>して<sup>市</sup>屠<sup>市</sup>福<sup>市</sup>乃<sup>市</sup>忽<sup>市</sup>少 城在  
 い<sup>市</sup>く<sup>市</sup>く<sup>市</sup>き<sup>市</sup>く<sup>市</sup>ま<sup>市</sup>け<sup>市</sup>ぬ<sup>市</sup>ふ<sup>市</sup>也<sup>市</sup>年<sup>市</sup>の<sup>市</sup>皇 全



鳳凰と舞あつと今初日新 佳梁  
 聖人市代也 市 福 始 祇 德



元日也門<sup>市</sup>了<sup>市</sup>雀<sup>市</sup>乃<sup>市</sup>子<sup>市</sup>代<sup>市</sup>ハ<sup>市</sup>千<sup>市</sup>代 斗 龍  
 心<sup>市</sup>よ<sup>市</sup>き<sup>市</sup>採<sup>市</sup>取<sup>市</sup>乃<sup>市</sup>い<sup>市</sup>ま<sup>市</sup>み<sup>市</sup>也<sup>市</sup>大<sup>市</sup>神<sup>市</sup>示 全  
 梅<sup>市</sup>さ<sup>市</sup>く<sup>市</sup>也<sup>市</sup>ツ<sup>市</sup>つ<sup>市</sup>り<sup>市</sup>す<sup>市</sup>く<sup>市</sup>も<sup>市</sup>懐<sup>市</sup>も 全  
 三<sup>市</sup>乃<sup>市</sup>ほ<sup>市</sup>り<sup>市</sup>ま<sup>市</sup>る<sup>市</sup>日<sup>市</sup>了<sup>市</sup>宮<sup>市</sup>り<sup>市</sup>今<sup>市</sup>朝<sup>市</sup>乃<sup>市</sup>奕 宇 鳩  
 皇<sup>市</sup>受<sup>市</sup>と<sup>市</sup>聲<sup>市</sup>ほ<sup>市</sup>め<sup>市</sup>く<sup>市</sup>れ<sup>市</sup>よ<sup>市</sup>く<sup>市</sup>男 全





相生乃取造せり 門飾 女干頂

万代の妻と背負りり年木樵 全

伊勢然いと糸始少世乃年 久満

初春乃市祝儀と先糸始 松女

千代ハ糸代縁重つ 門乃松 留女

一句兩節吟



墨水洞

せらるるとふ宝ともてり 吟湖の妻 祇風



世乃友といふめとせらん 福壽州 深難

あつてくふ妻産生ハや 餅乃取 全

會題



名も福也并天小路 玉乃春 峯若舎 祇雲

福之内く 鬼之外 出可 全

會訂



の川とりの黄金乃花也 福壽州 九室

はのの波くともや 松乃声 全

追加



勤定色合十嘉盤乃玉乃夾 祇存

聖乃夾ハアんとともや 評少 全

かへくちりこまめ合て 三の朝 祇伴

折もよき信濃信也 床敷乃蓍麦 全



魚形画  
樹、魚や結さ此  
秋の卯乃者

祇翠

繪馬、けね

大山連より

樹の花

祇徳



見ぬ枝の樹々香もくも覚る風 碑明  
 取く吐相もや じぬ乃花 祇喬  
 練乃事 後を 残せよ けつらつ 祇貞  
 系と見し 庭の面や 樹の花 千林  
 福也 善業 福理の 仲寺乃 後 齋 龍成  
 天王寺 亀の口より 水 ぬらぶ 祇月  
 東西の 風と 見て なる 榊 小 吳 幸  
 樹々 香も けき 木の 宮 此 業 内 乃 常 祇 晶  
 白 魚 乃 せき 上 乃 流 水 乃 後 祇 旭  
 紫の 帽子や 古 島の 葦 中  
 夷り ねや 壺の 爰 見 ぬ 牛 夢 じ  
 里 けし ちや 夢 とも しく 雪 解 川  
 祇 山 調  
 祇 麓



冬空うらやしくし梅枝くさ  
 江戸くさ梅枝方くさ梅やき  
 如峰  
 密刺し五十斗や梅枝路一  
 方水  
 身くさ子乃道と教枝梅見氣  
 菊成  
 遠くくさ梅枝山椿山橋  
 其濃  
 未嘗く海山くけし八重島  
 都道  
 以時とくさ梅乃あくれぬ  
 紀紫  
 今歳日ありしや蝶乃若菜乃  
 徳英  
 梅乃梅蛙乃唄やる土乃唄  
 祇園  
 白魚や先々梅苔乃臨通り  
 其發  
 蓋取了吸記くく梅うか

松若と夢く遊少戸初子日  
 樓川  
 梅を遠く海苔まひ存け原が  
 雞口  
 不知明鏡裏  
 多柳戸人よ公變のころき  
 在轉  
 くく此氷出く事あるはあか  
 小知  
 省井筒振分繁れ柳二重  
 田女  
 己ら同張時斗小忌く猫の意  
 夫天  
 酒も及び意もあるを角田川  
 祇徳

年此夜戸神代ふるは大神糸  
 梅洲  
 常季ゆりね梅の二人き  
 斗栗  
 煤掃乃巨燧一間とくさ牛刀







羽子板の押画も出まの梅の嶺女氣舎  
 三ツの濱も湯もいづれに三は朝  
 祇ひよりり戸高津乃神の夷  
 住吉此岸にまこと此飾一松  
 咲戸此花此夷中川此波浮  
 三ツは濱も湯もいづれに三は朝  
 御苗主此春に蒼のうめの花  
 名も常盤橋も澤まぢ千代の夷  
 一先くま子園おしづつ日の夷  
 梅おし一常も戸し一岩中乃  
 一日此花揮せハハハハハハハハ  
 多き多のより向く方戸夷夷夷夷

松家 風馬 眠雅 蘭父 祇逸 來茹 祇帆 捨舟 好谷 祇若 祇川

樹のこゝろ氣せ明けて 榊うさ 乃路  
 雪のこゝろ氣せよ花乃 山うさ 祇風  
 湯のこゝろ氣せよ花乃 本乃芽少 玉簪  
 めもあはれよ糸よりける 榊うさ 女千頂  
 山根寛と仙う 出店う車 龜貝  
 送り給へんを痛給うめ乃花 竹苞  
 鶴やうて子元申うしや 紅菜福 龜汀  
 仙人と奇 洲河や じめ乃花 百縁  
 名もあはれ喜見付より 水道橋 祇徳  
 雪乃河や 家乃常乃 十掌も 祇送  
 一京岡 穂一筋や 梅のつ梅 萬年  
 つけのこゝろ氣せよ花乃 圓の契 満明



田の中乃水少も其や 芥乃花 五牛  
まゝしきし雲笛と 春也 寺 松人



川松乃子産初如 子曰く何 見え水  
柳吸やしつゝ子すゝ懐 子 玉墨  
葉十終乃遠く色来り何の花 豊女

金隣退田

積りけし川得乃雲間や 若菜舟 白根

目

五言絶句ふくして吸や 柳乃花 楚楳  
而乃取も花ありて之終 鳴 蛙 沼家  
雨す清し月乃音あり 大阿日 全

堂やしらくも明く 戸を静 午橋

# 題七福禱

福祿壽 題も三ツ乃 朝やけけ 祇負  
初宮や 白ひも深き 鐘乃柳 枅橋  
琵琶乃多や 幕乃 向島 千鳥  
女流も布袋ほくふ如 袋う風 満明  
奢徳乃香や 人乃 冥乃 青光五 深雞  
あひ寸屋乃 暗意とる 門 飾 九照  
挺けやや 大馬 菴乃 飾 炭 祇徳  
急戸了 鶴乃くくや 此代の 夾 丸室



歳業

掛	乞	不	打	分	と	遊	人	兔	如	豆	田	旦
斧	の	柄	も	招	小	木	色	減	り	の	業	三
押	賣	の	納	也	と	れ	乃	屠	穩	配	流	光
五	も	一	と	生	来	と	秋	谷	の	年	義	最
梅	酒	了	年	忘	せ	ん	花	色	わ	り	彫	羽
古	把	し	根	ふ	く	也	と	如	紙	と	夜	牡
詩	致	の	味	あ	く	し	身	も	き	も	寒	馬
葛	篩	也	舟	と	菜	の	布	く	一	乃	市	湫
恒	若	き	人	君	子	く	大	之	十	日	白	清
留	貴	も	と	忠	也	根	つ	と	多	く	年	比
年	乃	尾	也	月	見	如	人	と	見	一	人	毛
											男	井
											川	

一	と	せ	乃	屏	風	や	床	水	と	雀	取	雪
松	竹	也	遠	秋	師	走	も	幕	新	内	一	瓢
武	乃	心	斗	と	や	と	如	と	れ	江	橋	
夫	ま	つ	也	世	く	中	如	村	枕	味	風	
心	と	や	師	走	も	無	く	了	言	笑	竹	響
春	乃	山	也	梅	了	嬉	き	笑	顔	微	風	
松	也	夫	と	あ	り	あ	り	年	乃	市	廿	千
鶯	も	路	中	意	如	日	也	大	酒	日	門	勝

全

年	新	美	あ	や	と	終	り	如	馬	の	服	可
西	岐	也	八	言	帆	り	ら	た	く	舟	德	三
第	季	也	岸	打	岐	と	く	く	汁	万	路	



空すも流るるも隔田川  
院雨  
殺もすすのりもあや  
葦葉物  
珉里  
してはかき水と氷も年情  
文魚

全

松賣の枝赤く遠く葉色うぬ  
轍魚  
今紙て朝露見ると年松園  
令堂  
年波や葉と深出もあ乃色  
閑江  
孫花と葉まの宿の枝折小  
懐秋  
福さゆり是ともくひや  
待弄  
けとけひささりのりと伊勢曆  
佐保丸  
妻見申る本乃向あさるよ  
春里  
後竈乃せりや年此  
瀬茶碓  
黍里

煉乃品掃て妻まの夢の巢  
泉之  
風呂出れの子と子くりり煉るる  
三羽  
燭輝とこりるるふ新呼き水  
珪組

春鳥 追加

永き見や番丁中と哉定り  
水雞  
高人乃よききぬるる今朝の妻  
祇角  
神棚う旭めてくく  
激沢  
親実子實やこれ家乃春  
小瓶  
門松る申葉色輝る人くさくさ  
志山  
酒とひ神とあさりり  
緑袂  
草旦帳細工始乃  
又力  
松竹了八雲之なり  
神乃妻  
暮橋









大晦日... 祇德

... 全

豆... 祇德

千里... 祇聰

官... 斗龍

明和六巳巳 右 秀義書

春二月吉日 其菜又力工

追加

通れ佳目... 阿能

... 梅窓

... 未白



